



私のひとりごと

「メッセージ（教訓）」

先般の台風 18 号により被害に遭われた方々には、心よりのお見舞い申し上げます。

私の住んでいる地区は天災等の被害が比較的少ない地域の為か、大変申し訳ない事であるが、これまでテレビ等で報じられる天災等の被害についてはどこか他人事の様な気がしていた。それがまさか自分の身に振り掛かってこようとは…。

台風 18 号が本県を通過した 9 月 16 日の未明、当社事務所横の大型用水路（幅 3m 深さ 4m）は溢れんばかりの水量となった。裏側の少し低い田んぼは、収穫前にも関わらず冠水し、またたく間に湖の様になってしまった。ちょうどその日は住宅見学会の最終日であったが、当イベント地区には避難勧告が出され、近くを流れる一級河川の耳川はすでに警戒水位を超えている。万一に備え消防車も待機し、もはや見学会イベントどころでは無くなったが、幸い会場となった現場には何の被害も無くホッと胸を撫で下ろした。



私は今回の台風に備え前日は会社に泊まっていた。早朝、会社や現場に被害が無い事を確認し、今度は自宅に向かうとしたが至る所で土砂崩れが発生。あまりの凸凹道に、四駆（4WD）の車でも立ち往生してしまい「今、再び土砂崩れが発生したら…」と命の危険すら感じたが、幸いにして脱出でき迂回路を使って家にたどり着いた。自宅近くの川は増水で激流となり恐怖すら感じる。すぐさま区の事務所に出向き、相談の上、非難勧告をすることになった。危険なお宅を一軒一軒回って非難するようにお願いするが、ここで新たな問題点が発生。それは、お年寄りや寝たきりの方は非難が困難であること。近くに住む人達の協力により辛うじて非難は出来たが、過疎化が進む集落の現実を突き付けられる思いがした。

台風一過…。未だ多くの爪痕が残るが、その原因は“水”である。私達は水により命を与えられ生かされているが、時にはその水により命を奪われる事さえある。また先人達の経験により、水に例えた多くの教訓が教えられている。「水のような澄んだ心になりなさい」だとか、「低きに流れる水のように、低い優しい心になりなさい」だとか、「入れる器に合わせ形を変える相手に合わせる心になりなさい」など、水と心を結び付ける教訓があまりにも多い。普段何気なく使っている水について、あの日以来、多くの事を考えさせられるきっかけとなった。もしかしたら今回の台風・大雨は私達の心づかいに対する神様からのメッセージ（教訓）かもしれない…。



ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき…、

あーがしう
ございました!!

